

声と音のバリアフリーを目指して

ユニバーサル・サウンドデザイン
(NPO法人許認可申請中)

こんな光景みたことありませんか？

おとうさん おとうさん テレビ テレビ

テレビがどうした！

ちゃんと映ってるぞ？

音がおおきいですよ ご近所に迷惑
でしょ！

お前の声の方が近所迷惑だろ～



難聴はもっとも理解されにくい障害

通常、難聴は少しずつ進行していきますので
(突発性難聴は含みません)

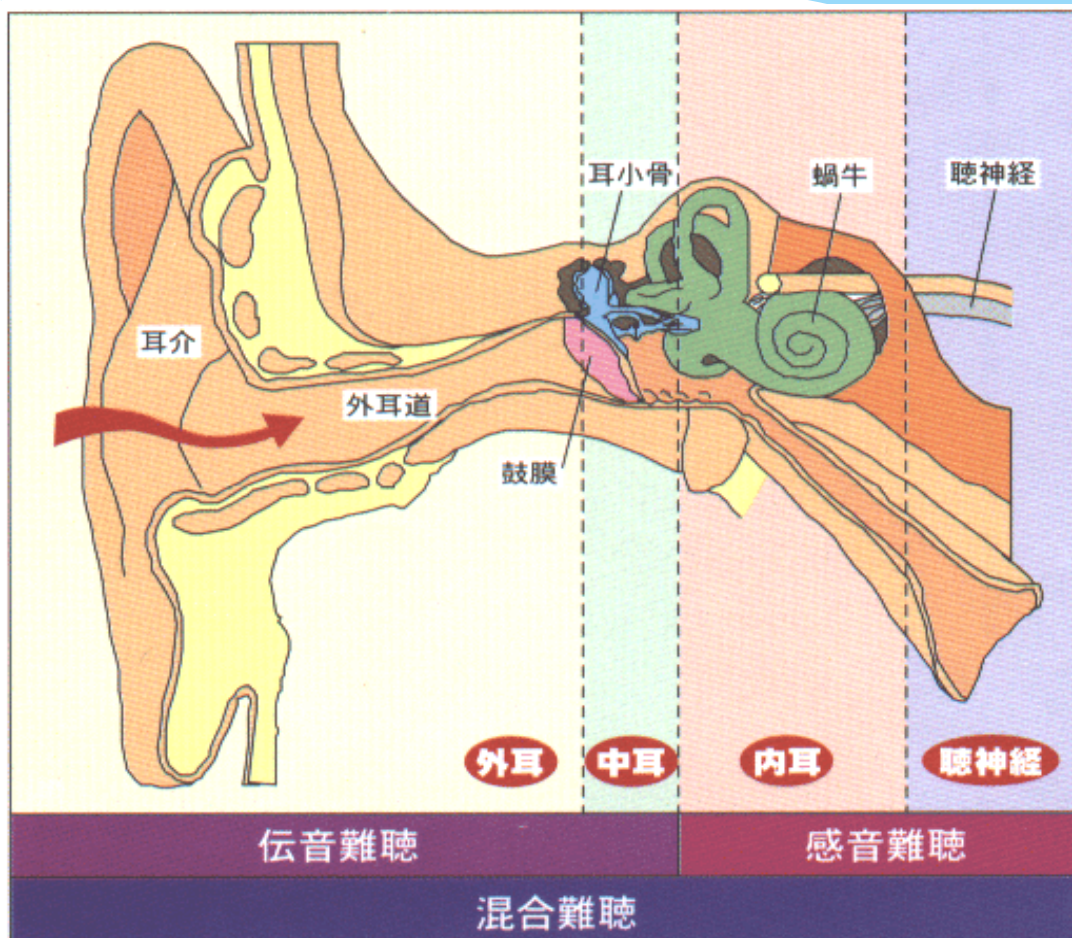
かなり進行してから気づく方がほとんどです。
先ほどあったテレビのボリュームの大きさがご判断いただくひとつの目安になります。

目はつぶれば「目が見えなくなったこと」をイメージできますので比較的不自由さを理解できます。

しかし、耳は鼻から耳管(じかん)が耳の内耳につながっているため耳をどんなにふさいでも完全に聴こえなくすることはできません
そのため直感的にその不自由さを感じる事が非常に難しいのです。

見た目ではまったくわからない部分も
理解が進まない一つの課題だと考えられています。

難聴の種類



•伝音難聴

鼓膜や耳小骨など、主に中耳の病気で音を内耳に伝えにくくなって起こったものです。音が、耳にふたをしたように聞こえます。

•感音難聴

内耳の感覚細胞、きこえの神経(聴神経)、脳の中樞のどこかが原因で起こったものです。単にきこえにくだけでなく、さまざまなひづみを生じている場合がおおく、ことばのきき間違いがあります。

•混合難聴

伝音難聴と感音難聴が同時に起こっているタイプです。中耳の伝音部分は補聴器で補えますが、感音部分は個人差が出ます。

なにげない音が苦痛になる

通常、生活をおくる上でなにげなく聴いている音

そんな、なにげない音が補聴器をつけている方にとっては大変つらい騒音になります。

例えば

- ふみきりのサイレンの音
- 救急車の音
- 子供の騒ぐ声
- リビングでの洗い物をする音
(カチャカチャとする食器の音など)

聞き取りにくい音

- 電車内での会話
- 多人数での会議

補聴器をつけているから聴こえるのでは？
という考えを改めなければなりません



イラスト・ムライタケシ

しっておきたいこどもの難聴

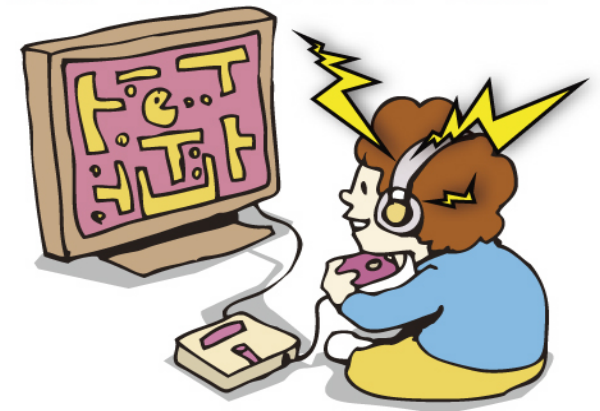
子供の障害として意外と多いのが、じつは難聴なんです。

はしかやおたふくかぜから内耳炎を発症し難聴のリスクを生みます。
おたふくかぜは数百に一人の割合でこどもに難聴が発症しているようです。

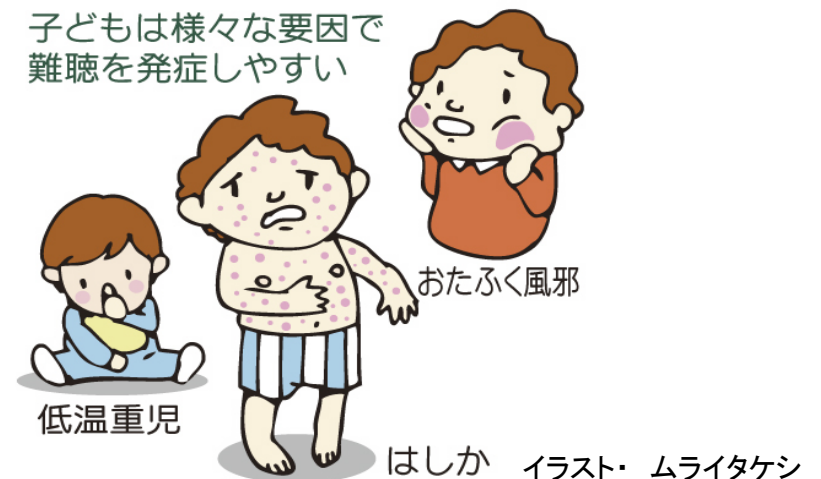
あと最近でこわいのは音響外傷という難聴です
大音量でヘッドフォンでゲームをしたり音楽をきくなどが原因になります。

こどもの難聴の弊害はこどもから言語習得のチャンスを奪うことです。
そうならないためにも早期に発見することが必要となります。

大きな音を聞き続けて
難聴になる子どもたちが 増加!!



子どもは様々な要因で
難聴を発症しやすい



声と音のユニバーサルデザイン

ユニバーサル・サウンドデザインは、松戸市にお住まいの難聴者や加齢により聴力が低下された方がすみやすいまちを目指して日々活動しています。

声や音を聞き情報を得ることは社会生活を営む上で非常に大切なことです。しかし聴力が低下し聴こえが悪くなったことで、通っていたサークル活動や家族間でのコミュニケーションが円滑でなくなり孤独感を感じたり、何度も聞き返すことでサークル内や家族間で孤立してしまうなど、日常の生活を行う上で大変大きな支障となってきます。

行政、自治会や市民活動およびNPO主催の講習会や説明会なども、高齢者の参加が多い場合もほとんどといていいほど、健聴者に聴こえることを基本としてサウンドデザインをしています。主催者側も参加する方の視点にたち「聞こえやすい環境を考慮する」ことを啓蒙し聞こえ環境の改善を目指しております。

私たちの取り組みがきっかけとなり、「聞こえやすい環境を考慮することが当たり前になるまち」となるよう活動を続けいきたいと考えております。

声と音のユニバーサルデザイン

だれもがより聞こえやすい環境が増えると

松戸はもっと豊かで暮らしやすいまちになる！

